

調布市地表面陥没に関する調査方針

令和2年10月19日に開催した「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」における調査に係る基本的考え方を踏まえ、本調査方針により調査を実施します。

1. 基本方針

- 調査は、「原因究明のための調査」及び「これまで掘り進めてきた区間の調査」により実施します。
 - 「原因究明のための調査」は、陥没の原因究明のために、ボーリング調査、地下水調査等を早急に実施するとともに、必要と考えられる調査を行います。

なお、陥没箇所及び周辺道路については、安全安心の確保のために路面空洞調査を実施するとともに、監視を重点的に行う。
 - 「これまで掘り進めてきた区間の調査」は、安全の確認のために、陥没箇所周辺以外の地表面についても常時監視体制を構築するとともに路面空洞調査を実施します。
- 調査の進捗及び結果や「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」における検討等を踏まえつつ、今後とも適切に必要な調査を実施します。
- 調査の実施にあたっては、あらかじめ関係自治体及び沿線住民の方に周知して実施します。

2. 調査方法

(1) 原因究明のための調査

○ 路面空洞調査

- ・ 別紙1に示す陥没箇所及び周辺道路において、「高解像度地中レーダーシステム」を用いて空洞の有無を調査します。
- ・ 調査は自走式電磁波地中レーダ探査車を走行させて行います。
- ・ 調査は10月20日（火）から実施しています。

○ 地盤状況の調査

- ・別紙1に示す箇所において、ボーリング調査及び音響トモグラフィー調査を実施し、深度方向及び断面方向の地盤状況を確認します。
- ・調査は10月24日（土）から実施予定です。

○ 地下水状況の調査

- ・上記のボーリング調査箇所及び既設の調査孔を用いて、地下水の水位、流向、流速の状況等を確認するとともに、陥没箇所から採取した地下水の成分分析を行います。

○ 埋設物の状況の確認

- ・陥没箇所周辺の埋設物の状況を企業者ととも確認します。

○ 地歴、文献、施工データの再確認

- ・陥没箇所周辺の地歴、文献、施工データを再度確認します。

(2) これまで掘り進めてきた区間の調査

○ 地表面の常時監視

- ・別紙2に示す範囲の道路において、地表面変動を常時に観測するためGNSS測量を実施します。
- ・GNSS測量の実施にあたり、数百メートル単位で固定観測点を設置する予定であり、固定観測点の位置や観測開始等の詳細については、今後、関係機関との協議を実施します。

○ 路面空洞調査

- ・別紙2に示す範囲の道路において、「高解像度地中レーダーシステム」を用いて空洞の有無を調査します。
- ・調査は自走式電磁波地中レーダ探査車を走行させて行う予定であり、今後、関係機関との協議を実施します。
また、調査にあたっては、沿線住民の方に周知して実施します。

3. 調査結果

- 陥没の原因究明及び調査範囲の安全の確認を目的に、「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」における検討に調査結果を活用し、これまでと同様に委員会資料を公表します。
- 併せて、ホームページでも調査結果をお知らせいたします。

以 上

原因究明のための調査

- 路面空洞調査
- 地盤状況の調査
- 地下水状況の調査
- 埋設物の状況の確認
- 地歴、文献、施工データの再確認

＜路面空洞調査の凡例＞

調査範囲



これまでの調査範囲



調査範囲

● 10/18陥没箇所

南行トンネル
NEXCO日本(鹿島JV)

北行トンネル
NEXCO中日本(大林JV)

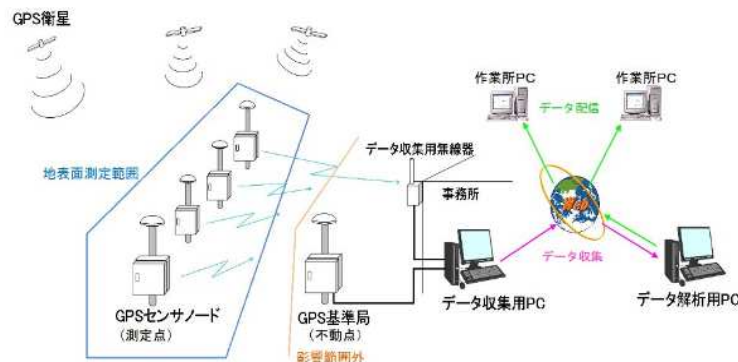
これまで掘り進めてきた区間の調査

- 地表面の常時監視(GNSS測量)
- 路面空洞調査

東京外かく環状道路(関越～東名) 延長16.2km



【GNSS測量イメージ】



※調査の進捗及び結果や「東京外環トンネル施工等検討委員会 有識者委員会」における検討等を踏まえつつ、今後とも適切に必要な調査を実施します。